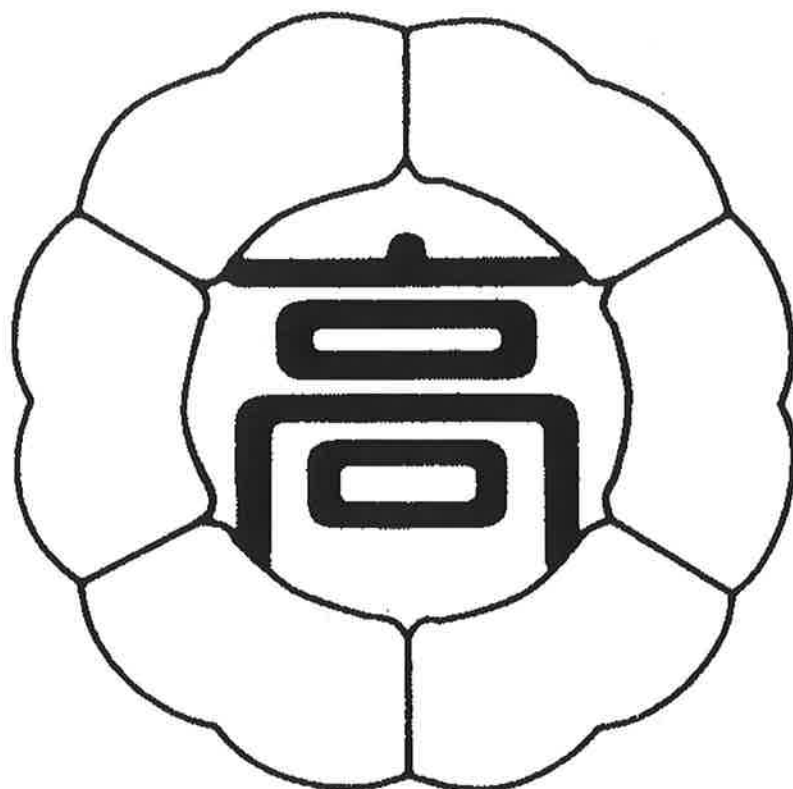


2019年度北海道大谷学園連合会  
高等学校相互評価報告書

対象校 函館大谷高等学校



評価校 北海道大谷室蘭高等学校

(評価日 2019年12月13日)

2020年3月31日

北海道大谷学園連合会相互評価委員会

## 北海道大谷学園連合会相互評価委員会

主査	中西 猛雄（北海道教区大谷学園委員会委員）
委員	山田 寿雄（北海道教区大谷学園委員会委員、主査代理）
委員	金石 潤導（真宗大谷派北海道教区教化本部長）
委員	種市 政己（札幌大谷高等学校長）
委員	丸山 政秀（函館大谷高等学校長）
委員	山下 優（稚内大谷高等学校長）
委員	竹本 将人（北海道大谷室蘭高等学校長）
委員	佐藤 健一（函館大谷高等学校事務長）

## 函館大谷高等学校の概要

設置者	学校法人 函館大谷学園
理事長名	門間 佳一
校長名	丸山 政秀
開設年月日	1888（明治21）年11月
所在地	函館市鍛冶1丁目2番3号
設置学科	普通科（普通コース・体育コース）
入学定員	130名
教職員数	（総数） 42名 （常勤） 22名 （非常勤） 20名

### ○校舎・設備について

入学生の増加により、特別教室（芸術系教室）を普通教室に転用したため、新たに芸術系教室を建設。当初の見積もりよりも建設費用の増大と、完成の遅延が生徒に迷惑をかけたが、使い勝手の良さと明るい雰囲気など、学園にとり大きな財産となり得る。

- ・普通教室は、清掃も行き届き、数字キー付きのロッカーを設置するなど、生徒の使い勝手の良さに配慮したものとしている。また、ガラス黒板を導入し、授業に光学機器やPC利用を促進する配慮がなされている。

### ○報告書における質問事項について、回答を受けた。

#### a. 財政について

- ・事前に財政等の質問への回答を受け、それに対する応答があった。（事務長）  
過去三年間の入学者定員充足率推移は79%（H29）→98%（H30）→113%（R1）であり、3年連続で学生生徒納付金収入が増加している。また、今年度の人件費比率については53%となっており、極めて健全であるといえる。

少子化による入学者確保対策として、7月に市内私立高校8校の合同説明会に参加したり、入試説明会で学費等の相談を気軽に行える専用ブースを設置したりするなど、様々な工夫の中、入学者の増加につなげている。定員超過による管理運営費補助金ペナルティ制度とのバランスを取りながら、適正な定員確保を目指す姿勢は是非見習いたい。

また、財務状況の教職員への周知は職員会議により行われており、校長先生のリーダーシップのもと、全教職員で現状把握と将来展望を共有している点も評価できる。

#### b. 分掌等について

- ・生徒指導部において、「QUテスト」の実施。生徒の学級満足度並びに学校生活意欲の分析テストを実施。学年毎に分析評価を行っている。特に、いじめ等の早期発見や先生との信頼関係の把握に努めるなど、効果的な使い方ができると考えられる。
- ・教科（社会科）の選択科目について、専門教科の関係との回答を得る。

### ○建学の精神・教育目標・学校目標について

明治の六和女学校からの理念が、函館大谷に引き継がれ、「人間」というところに焦点をあてた教育活動が展開されていることが感じられる。そして、平成20年より「学園訓に沿う教育目標を」との考えから、平成10年までの教育目標である「人間性 自主性 積極性 協調性」に設定し直したことで、前述の理念がさらに深まった。

教職員・生徒へは、学校案内パンフレット、生徒のしおり、入学式等の式辞や

挨拶の中で周知しており、普段の生活のなかに息づいている。建学の精神や教育目標等のスローガン化した「人間大好き」を、大谷専修学院元学院長である竹中智秀先生の言葉である「選ばず、嫌わず、見捨てず」を拠りどころとした生徒に寄り添う教育として、学校長はじめ各教職員が十分理解し、自ら実践（色々な施策を採用し、きめ細かい指導を実践中）しているところに現れている。

建学の精神を柱とし教育目標達成に向け、教職員一丸となった教育活動の実践、そして笑顔の絶えない学校（学園）づくりを、今後とも継続されていくことを願っております。